

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	活動内容によって、机の配置等を工夫し、適切なスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	7	0	十分な支援確保の為に増員を実施	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	空間、場所に応じて、イラスト等を設けて視覚化を図っている	・事業所内に多少の段差あり。歩行がおぼつかない児童や足元への注意のサポートが必要な児童の為に色分け等の工夫を検討 ・階段の手すりに関しては前年度同様、管理会社・所有者と相談中だが許可がおりていない状況
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	児童が帰宅後、次の日に向けて清掃、消毒の徹底。危険物の除去	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	毎月の勉強会や、日々の朝礼で児童への対応や業務遂行への問題点はないか等を話しあっている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	前年度評価や日々の保護者からの意見を参考に業務改善・遂行に努めている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	今回及びこれまでの評価を自社ホームページに公表している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		前年度、沖縄県から派遣されるコンサルティング担当者に外部評価をしてもらったが、以降は未実施の為、定期的な外部評価の機会を検討していきたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	スタッフの資質向上に向けて、必要な研修を毎月実施している	コロナが収束したこともあり、外部研修が活発になってくることも予測される為、積極的な情報収集・参加でスタッフの資質向上に努めていきたい
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・保護者、関係者との面談やモニタリングを積極的に行い、個々の特性、状態把握に努めている ・日々の支援では、細かな変化にも気づけるよう朝礼等で全員で意見交換する機会を設けている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	自社独自のアセスメント、モニタリングシートを使用し標準化、統一化されたアセスメントを行っている。内容変更に余地のあるものについては、スタッフ間で共有しながら検討を行っている	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	個別支援計画作成時点で、本人への直接支援、家族支援、関係機関(学校や併用先等)との連携や地域支援を視野にいれた内容作成を行っている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	児童の特性や状態に合わせて、支援状況が明確になるようチェックリストを作成し、スタッフ間での共有を図りながら、個別支援計画から逸れることがないよう支援の提供を行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	月1~2回、全体ミーティングで活動内容の検討を行っている。スタッフ個々の専門性の意見を取り入れ、役割を明確にした立案を行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	全体ミーティングでのプログラム立案の際、常に新しい活動の実践や児童の療育に繋がるプログラムを積極的に行っている。児童が楽しみながら且つ効果的なプログラムを常に模索することに努めている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	児童それぞれにあった個別活動を行いつつも、小集団という強みを活かし、集団活動と組み合わせながら効果的な活動を実践している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	日々の朝礼で当日の流れや活動内容、役割分担、スタッフ配置まで、細かく話し合い、共有している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	当日にできる振り返り、共有は行っているが、その日の内で全体共有が難しい内容については、翌日には必ず共有するようにしている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	毎日の記録を細かく行い、誰が読んでもわかる内容で記録を残している。その記録を元に振り返りを行い、次の支援に活かせるよう取り組んでいる	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	個別支援計画の内容や取り組み状況は個々の計画内容に沿って、定期的にモニタリングを実施している	
関係機関や保	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児発管を中心に児童の状態や支援状況に合わせて専門職等が会議・モニタリングに参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	行政や関係機関との連携は密に行っている。モニタリングのみならず、児童の様子や保護者の要望やニーズに合わせて適宜連携を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/	医療的ケア児の受入れ、重心児の受入れはない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/	医療的ケア児の受入れ、重心児の受入れはない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・移行支援の実績はまだなし。一方で保育園閉園に伴い暫定的な療育日数の増加や受入れ相談はあり。保育園、こども園とは定期的に情報共有を行っている ・日頃から、学校の先生達とも連携を取り、児童の様子や支援について情報共有を行い、受けた内容を職員間でも共有している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	児童が在籍しているこども園、保育園等と情報共有を行い、小学校進学に向けた情報共有を行っている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	事業所が所在している市町村の児童発達支援センターと連携し、助言を受けている。他児童発達支援事業所とも連携し、児童の支援方法や専門性を活かした支援内容等について情報交換を行っている	関連性の高い特定の事業所との情報共有は行っているが、今後は幅広く関わっていき、事業所間の横の連携を深めていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	夏休み等の長期休暇で児童が長時間利用する際に地域交流を図っている	地域交流の機会を設けているが、最近は回数が減ってきている。今後はインクルージョンの視点から積極的に地域交流を図っていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	こども部会から声掛けがあった際は積極的に参加している	自立支援協議会、こども部会の活動が事業所単位に反映されていないこともあり、上手く参加に至っていない内容もある。今後は事業所側からも参加へのアプローチをしていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	利用状況がわかりやすく伝わるように、その日の様子をLINEで細かく伝えている。保護者からは、一日の振り返りに役立っていると好評を得ている。気になる事、些細な変化についても送迎時に保護者と共有している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2	5	保護者の対応力向上の点から、保護者の不安や悩みに寄り添い、専門的支援の立場、支援者の立場から児童に対する対応方法や児童の気持ちを代弁したり等、家庭だけでは気づけなかった事に気づけるよう助言等を行っている	ペアレントトレーニングとしてのプログラムはまだ行えていない。今後は保護者と共有できるペアレントトレーニングの開催をしていきたい
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	契約時、運営規定を踏まえた事業内容、事業所の特色等を細かく伝えている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	個々の特性に寄り添った個別支援計画を策定し、内容の説明と共に保護者からの同意を明確に得ている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	常に保護者の話に耳を傾け、話しやすい環境作り、関係性構築を行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3	夏のイベントとして、児童、保護者、スタッフの交流を目的とした親子BBQ交流会を実施	コロナが収束したこともあり、更に保護者に向けた活動を活発化させていきたい。保護者、スタッフの活動が活発化を図りながら、保護者会の発足や定期的に保護者間で情報共有できる場面を設けていこうと検討している
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	児童、保護者から相談がある際は、すぐにスタッフが対応し管理者との共有を図っている。相談内容や必要な対応等は、管理者からスタッフへ共有する等して情報が錯綜し、相談内容が混乱しないようにしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	ホームページ、インスタグラム、個別LINE、日課表の配布等で活動内容の共有を行っている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	個人情報には、最も厳重に取り扱っている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	保護者の体調次第では意思疎通が困難な場合もあるが、LINE等の身近にあるツールを使用し、言葉だけでなく、文章として残すことで大切なお知らせが漏れなく伝わるようにしている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3	季節の行事で地域の事業所との交流を行っている	地域で開かれるイベントが土日と重なることもあり、児童と一緒に参加することが難しいこともある。管理者側が参加し、自事業所の情報を地域に発信している
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	各マニュアルを作成し保護者へ配布、周知を実施。避難訓練は消防計画に沿って年2回(6月:地震・津波、12月:火災)実施している		
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	同上		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	0	利用開始前の保護者面談で服薬状況、その発作等を聞き取り、アセスメントを行っている。面談内容に関してはスタッフとの共有を欠かさず行っている		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	アレルギーの有無に関しては保護者面談で確認を徹底している。重篤なアレルギー症状、発作がある内容に関しては医師の指示書を求めているが、現時点では重篤なアレルギー症状を有している児童は在籍していない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	定期的にヒヤリハット報告書、事故報告書を共有し、改善を図っている。半年に1回、虐待防止委員会の活動の一環で年度中のヒヤリハット事例の共有を行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	虐待防止委員会を主に3か月に1回程度の頻度で虐待防止研修を実施している。職員への虐待防止意識の啓発、知識向上を行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0		身体拘束を行う事例がなく、想定する程の行動障害を有した児童の利用がない。今後必要がある際はしっかりと具体例を示し、保護者への説明と共に計画書に明記していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。